

6. 公共交通施策と活性化支援策

6.1 新たな公共交通施策

6.1.1 新たなバス路線の運行

（御所市方面～大規模商業施設～県立医科大学附属病院～近鉄大和八木駅）

- ▶ 南西部地域で、買い物施設、駅や通院先等を結ぶバス路線を運行し、バス交通サービスを拡充します。
- ▶ バスターミナル整備により、近鉄大和八木駅周辺や県立医科大学附属病院への乗り継ぎ機能を強化します。

(1) 南西部地域の状況・ニーズ

【高齢者人口の状況】

- ・平成2年と比べ、平成23年の65歳以上の高齢者が占める人口割合は約12%増の21%の超高齢社会にある。特に、南西部地域の高齢化率が高く、かつ高齢化の進行が近年早い傾向にある。

【バスサービス水準の状況】

- ・路線バスの一部廃止で、高齢化率が高い南西部地域で公共交通空白地域が見られ、バス交通のサービス水準が低い状況にある。

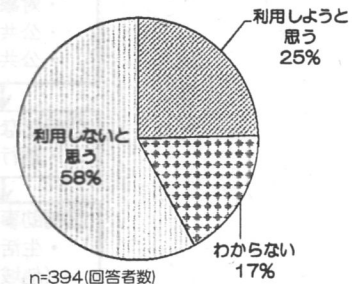
【郊外型大規模商業施設周辺の渋滞状況】

- ・郊外型大規模商業施設（イオンモール橿原）周辺では、日常的に渋滞が発生している。

【住民・利用者等意向調査結果によるニーズ】

- ・4人に1人は、新たなバス路線の利用意向がある。また、非自動車保有者や高齢者ほど、利用意向は若干高い傾向にある。
- ・新たなバス路線の利用目的は、イオンモール橿原への買い物や近鉄八木駅周辺への外出での利用が多い。

●新たなバス路線の利用意向



n=394(回答者数)

※住民アンケート結果

(平成23年10月実施)

(新沢・金橋地区対象にした設問)

新たなバス路線の運行

(2) 新たなバス路線の導入目的

ア 基本方針

市域を越えた買い物・通院目的に利用できる新たなバス路線

橿原市と御所市の観光周遊に利用できるバス路線

イ 運行目的

1. 南西部地域の公共交通空白地域の解消
2. 住民の移動目的の主目的である買い物及び通院における公共交通の利便性向上
3. 大型商業施設アクセスの自動車からバス交通への転換による渋滞緩和
4. 公共交通による橿原市と御所市との観光周遊アクセスの強化

(3) 導入の進め方

南西部地域における新たな公共交通サービスに対する取り組みは、「現状把握」、「導入検討」、「実施」、さらに「検証・評価」の手順に従って進めます。

取り組みの方向性（視点）は、移動先として最寄り駅、通院先や買い物施設を基本とし、橿原市の中心核・地域拠点へのアクセスにも配慮します。実施にあたっては、市が主体となり公共交通ワーキングを設置し、需要動向や地域事情を分析した上で交通事業者等関係機関と連携した取り組みを進めます。

また、御所市方面も運行するため、御所市地域公共交通会議でも検討する必要があるため、御所市と協調して取り組みを進めます。

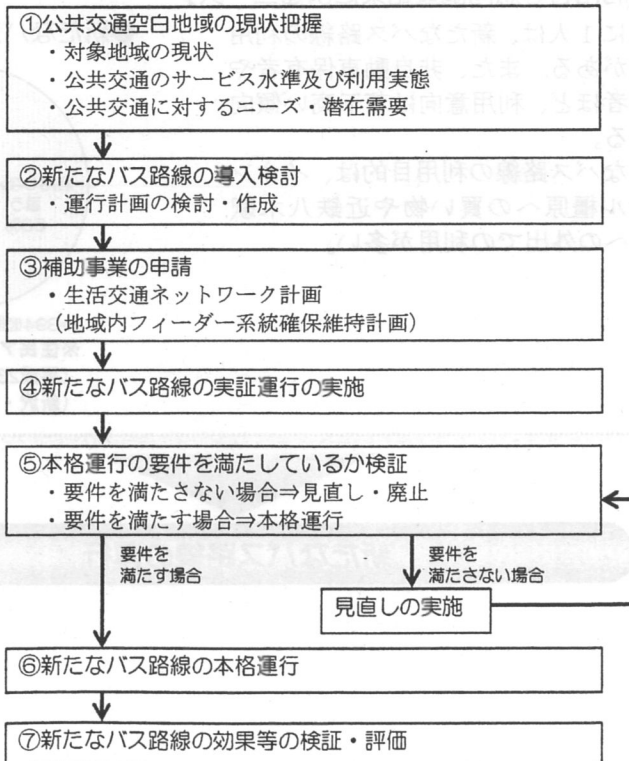


図 6.1 新たなバス路線の本格運行までのフロー

(4) 運行ルート

運行ルートのイメージは、鉄道駅や地域間幹線系統*のバス路線の起終点である近鉄大和八木駅と八木駅やイオンモール橿原を起点として、近鉄坊城駅、新沢千塚古墳群や博物館への施設改修が予定されている千塚資料館がある川西町、一町、観音寺町及び御所市北東部地域等を経由して近鉄御所駅を終点とするもので、今後、具体的に検討します。

●運行ルート案

《近鉄大和八木駅～イオンモール橿原～近鉄坊城駅～川西町～観音寺町～近鉄御所駅》



図 6.2 運行ルートのイメージ

※地域間幹線系統とは

複数市町村をまたがる広域的なバス路線であり、奈良県地域交通改善協議会の地域間幹線系統確保維持計画に位置付けられた路線です。橿原市内を運行する地域間幹線系統のバス路線は、5路線7系統(八木新宮線(八木駅～新宮駅)、八木大滝線(八木駅～湯盛温泉杉の湯、八木駅～大淀バスセンター)、八木下市線(八木駅～畑屋口～岩森、八木駅～南大和三丁目～岩森)、八木御所線(八木駅～近鉄御所駅)、高田イオンモール線(竹取公園東～イオンモール橿原アルル))です。



図 6.3 近鉄大和八木駅と新宮駅を結ぶ八木新宮線

○千塚資料館について

市の南西部に位置する新沢千塚古墳群とその周辺地域では、健康づくり・学習交流拠点としての整備が予定されています。関連事業として、千塚資料館の博物館への格上げに向けた施設改修等の事業を平成24年度から実施します。



図 6.4 千塚資料館

(5) 利用運賃

利用運賃は、近鉄大和八木駅・イオンモール橿原～近鉄御所駅間を他ルートで運行している既存路線バスへの影響を考慮した料金体系を考えます。

表 6.1 利用運賃のイメージ（距離料金制の場合のイメージ）

● イオンモール橿原からの運賃

	運賃(円)
近鉄坊城駅	220
川西バス停	340
観音寺町	440
近鉄御所駅	580

● 近鉄大和八木駅からの運賃

	運賃(円)
医大病院前	180
イオンモール橿原	280
近鉄御所駅	630

※運賃は、既存路線バスの距離料金制をベースで表示。

(6) 運行時間帯

運行時間帯は、買い物や通院等の昼間時間帯の利用に対応することを基本とした概ね午前8時から午後5時（起点出発時刻）で考えます。

(7) 運行ダイヤ

運行ダイヤは、乗り継ぎ拠点における、近鉄大阪線、近鉄南大阪線、路線バス（イオンモール線等）、御所市コミュニティバス等の接続を考慮して考えます。また、利用者に分かりやすいラウンドダイヤ等を考えます。

(8) ターミナル機能の拡充

イオンモール橿原にあるバスターミナルは、路線バスの複数の路線（イオンモール線、高田イオンモール線）の起終点となっており、市内の主要な乗り継ぎ拠点（ハブ）としての機能があります。新たなバス路線の運行によるターミナル機能拡充を考えます。



図 6.5 ハブ機能を持つイオンモール橿原バスターミナル

(9) 利用促進策

新たなバス路線の利用促進と商業施設の買物利便性が向上する新たな取り組みを、商業施設と共同で考えます。

商業施設と共同で行う利用促進策として、考えられる施策例を以下に示します。

- ・ 商業施設の折り込み広告に新たなバス路線の運行情報を掲載
- ・ 商業施設内に新たなバス路線の運行情報を掲出
- ・ バスを利用する買い物客を対象とした買い物割引(エコショッピング)や運賃割引等



図 6.6 イオンモール橿原内でのバス運行情報提供の状況

(10) 需要予測と収支予測

1) 需要予測

新たなバス路線の需要予測は、住民アンケートの利用意向に基づいて需要予測します。
参考に、橿原市コミュニティバスの沿線利用割合に基づいた需要予測結果も記載します。

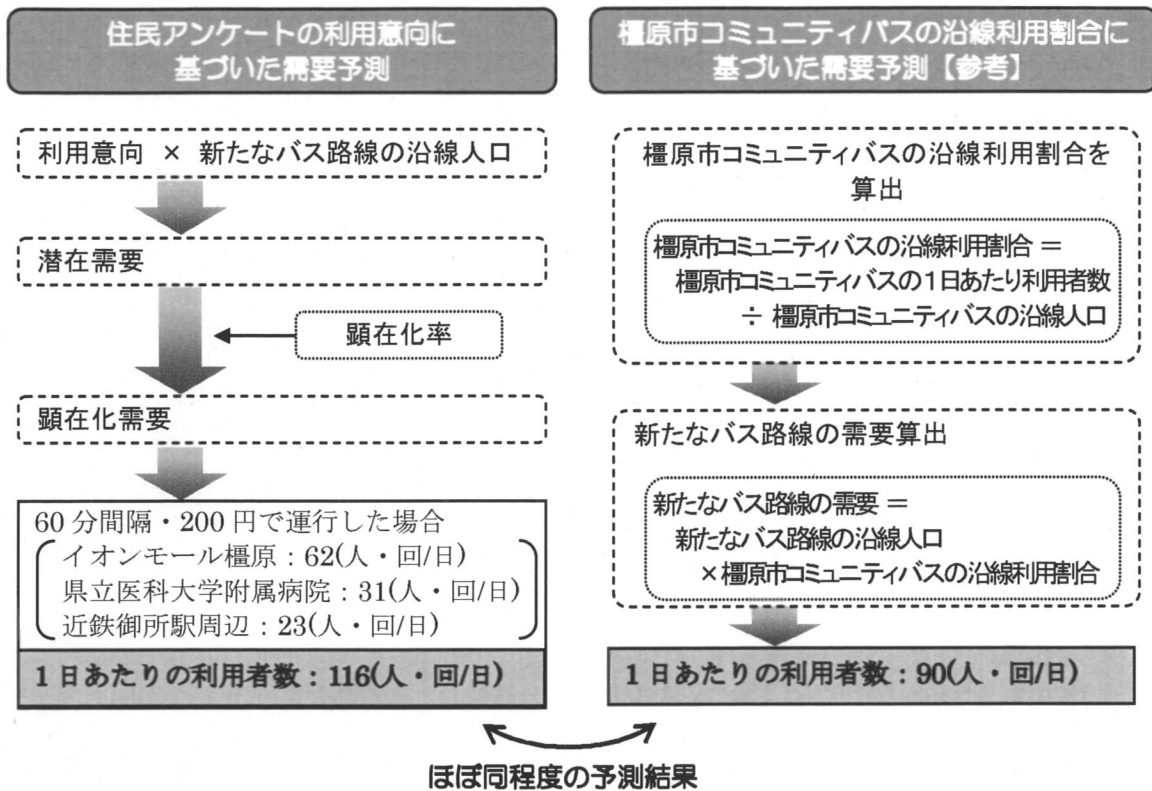


図 6.7 各ケースの算出手順と算出結果